# LIBRARY

鳥 取 大 学 附 属 図 書 館 報

135
Mar / 2021

INDEX

01　巻頭言
民藝に魅せられて　松浦達也

04　私の選んだこの一冊
『本好きの下克上』　小柳淳二
『ソルハ』　井上柚希
『エバーグリーン』　鎌田壮譜

08　新しい図書館システムについて

10　トピックス
乾燥地研究センター設立７０周年記念パネル展
附属図書館の新型コロナウイルス感染症対応について
E-Book（電子書籍）サービスのご紹介

巻頭言

# 民藝に魅せられて

松浦　達也（まつうら　たつや）
副学長（附属図書館長、医学図書館長）、医学部教授

令和2年は世界的な新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の出来事が起こり、附属図書館でもその対応に追われた。そんな中にあっても毎年行っている企画展示は例年通り実施することができた。その企画展の一つに民藝に関するものがある。令和2年は鳥取で民藝の普及に貢献した医師の吉田璋也（よしだしょうや）が民藝運動の祖である柳宗悦（やなぎ　むねよし）と出会い民藝運動に傾倒してから100周年という記念の年であった。璋也が設立した鳥取民藝美術館では特別展「柳宗悦との出会いから百年　吉田璋也の民藝　―美の王国を夢見て―」が開催された。附属図書館でも吉田璋也や民藝に関連した本の展示を前述の特別展に合わせて企画した。中央図書館には展示したものも含め多くの民藝に関する本が収蔵されている。

ところで、民藝とは“民衆的工藝”の略であり、柳宗悦が考え出した言葉である。柳は民藝の（美の）特色を著書「民藝とは何か」[1)]の中で以下のように述べている。第一は実用性で、美が生活に即して生まれてくるということ。第二は実用品であることは常に多量に作られることと、それが廉価であること。第三は平常性で、最も自然な状態にある美は結局最も美しいということ。第四は健康美で、工藝品の中で、一番働き手である民藝品は、必要上一番健康に作られているということ。第五は単純美で、単純性と美の間に深い結縁があるということ。第六は協力性（無銘性）で、民藝品は個人の所産ではなく、多くの人の協力的所産だということ。第七は国民性で、地方こそ特殊な材料と独特な伝統の保有者であり、国民的伝統の上にこそ、強固な国民的美が発露されるということ。このような新しい美学を世に問うた民藝運動には、濱田庄司、河井寛次郎、バーナード・リーチ、富本憲吉らが参加した。数年前から何回目かの民藝ブームが起こっている。民藝を特集した雑誌も数多く出版されている。令和元年秋に放送されたNHKの朝ドラ「スカーレット」は信楽焼の女性陶芸家の半生を描いた作品で、ドラマの影響もあり、陶芸や器に興味を持つ人が更に増えた。

なぜこのように多くの人が民藝に魅せられるのであろうか？

私が鳥取大学に赴任してから25年が経ったが、民藝に興味を抱いたのは10年ほど前に牛ノ戸焼の青緑と黒の染分皿を目にしてからである。決して技巧を施すわけではなく単純な2色の染め分けでこれほどまでに魅力的な美しさが出るものかと感心した。この染め分けは吉田璋也の支援、指導の下で誕生したという。それから牛ノ戸焼の作品は片口、皿、小鉢などを中心に数多く手に入れた。璋也が夢見た民藝王国鳥取には数多くの窯元がある。民藝に嵌ってからは、どのような場所で作品が作られるのかを見てみたいという想いに駆られ山陰各地の窯元を巡った。岩美町の延興寺窯、岩井窯、河原町の中井窯、青谷町の山根窯、松江市玉湯町の湯町窯、雲南市三刀屋町の白磁工房、出雲市斐川町の出西窯、大田市温泉津町の森山窯などである。いくつかの窯では作り手と話す機会を得たが、いずれも素朴で誠実な人柄が感じられ、作家というよりも職人と呼ぶ方がぴったりな方々であった。このような作り手から生み出される作品は素朴な風合いと自然な美しさを持っており、手に取るだけで嬉しく、幸せな気持ちになる。民藝関連の美術館・博物館も数多く訪れた。鳥取民藝美術館の他、東京駒場にある柳宗悦が創設した日本民藝館、出雲市知井宮町の出雲民藝館、倉敷市美観地区の倉敷民藝館、京都五条坂にある河井寛次郎記念館などを訪れ多くの民藝品を鑑賞することができた。平成22年に安来市の和鋼博物館で開催された「生誕120年記念　歓喜の人　河井寛次郎」、同年　安来市の加納美術館で開催された「河井寛次郎特別展」、平成29年に鳥取県立博物館で開催された「日本民藝館所蔵　生誕130周年　バーナード・リーチ展」、令和2年に北栄町の北栄みらい伝承館で開催された企画展「生田和孝の手仕事～鳥取民藝運動に連なる丹波の陶工～」を見学した。また、私は安来市の足立美術館を年に何回か訪れる。足立美術館には陶芸館があり、河井寛次郎、北大路魯山人の作品が展示されている（現在は魯山人館が別棟で建てられたため、寛次郎の作品展示は中止されている）。魯山人は織部、志野、信楽、備前、染付などを好んで作陶しており、決して民藝作家ではなく、実際民藝運動にも批判的であった。寛次郎も民藝にこだわらず晩年は作風を変えている。しかしながら、寛次郎や魯山人の本物の美術品を見ると美（魯山人はそれに加えて楽しむや興じるという要素も）を感じることができ、心をうたれる（後述する「刺さる」という感覚に近い）。民藝の器は同型のものが複数個作られるが、機械生産ではなく手作りということでそれぞれ形や色が微妙に異なる。私の器選びは直感を大切にし、「（心に）刺さる」ものを選ぶ（柳宗悦やバーナード・リーチは小説の中でその感覚を「好い（いい）」と表現している[2)]）。直感なので具体的には言えないが、敢えて言うならば、シンプルさの中にも味わいがあり、釉薬の掛かり具合が絶妙で、手に取って使い勝手の良さそうなものを選ぶ。また、民藝は見せるためのものではなく使うためのもの、飾るのではなく使って楽しむものであるから、料理を盛りつけたり、酒を注いだりした時にどの様な光景になるかを

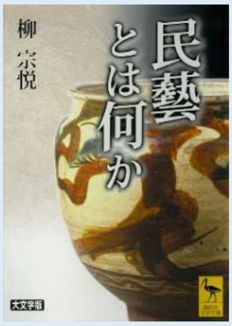
写真：徳利・ぐい呑（白磁工房）、豆皿（京焼）、盆（仁城逸景）

想像しながら選ぶことも多い。写真にある白磁工房の面取りの薦口1合徳利は少し小ぶりだが、なんとも愛らしく美しい。これに小さめのぐい呑みで日本酒をいただくと美味しさも格別である。ついつい酒量が増えてしまうのが難点である。

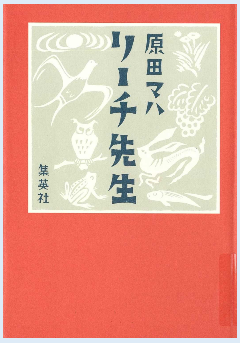
結局、私の場合、民藝に出会うことで器を使う喜びを知った。お気に入りの器で料理を楽しみ、使うことで器を育てる。そのような全ての過程が人生を豊かにしてくれる。せっかく民藝王国鳥取（山陰）に暮らしているのだから、民藝に触れる機会を持たれてはいかがだろうか。まずは手始めに図書館にある民藝の入門書を手に取ってみるのもいい。また、民藝王国鳥取（山陰）では陶器市や木工なども含めた手仕事展がデパートや新聞社のホールで年に数回開催されるし、著名なギャラリーもあるので、窯元や工房を訪れなくても実際に目で見て手で触れて、お気に入りの作品を選ぶことができる。多くの人を魅了している民藝を取り入れた生活も楽しいものである。

参考文献

1）柳宗悦 「民藝とは何か」 講談社学術文庫
2）原田マハ 「リーチ先生」 集英社



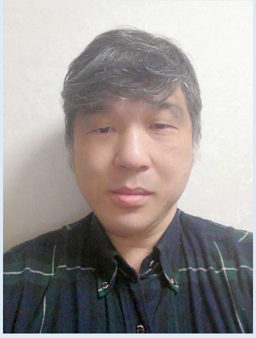

中央図書館 新書・文庫コーナー
文庫:Koh:1779




中央図書館 開架
913.6:Har

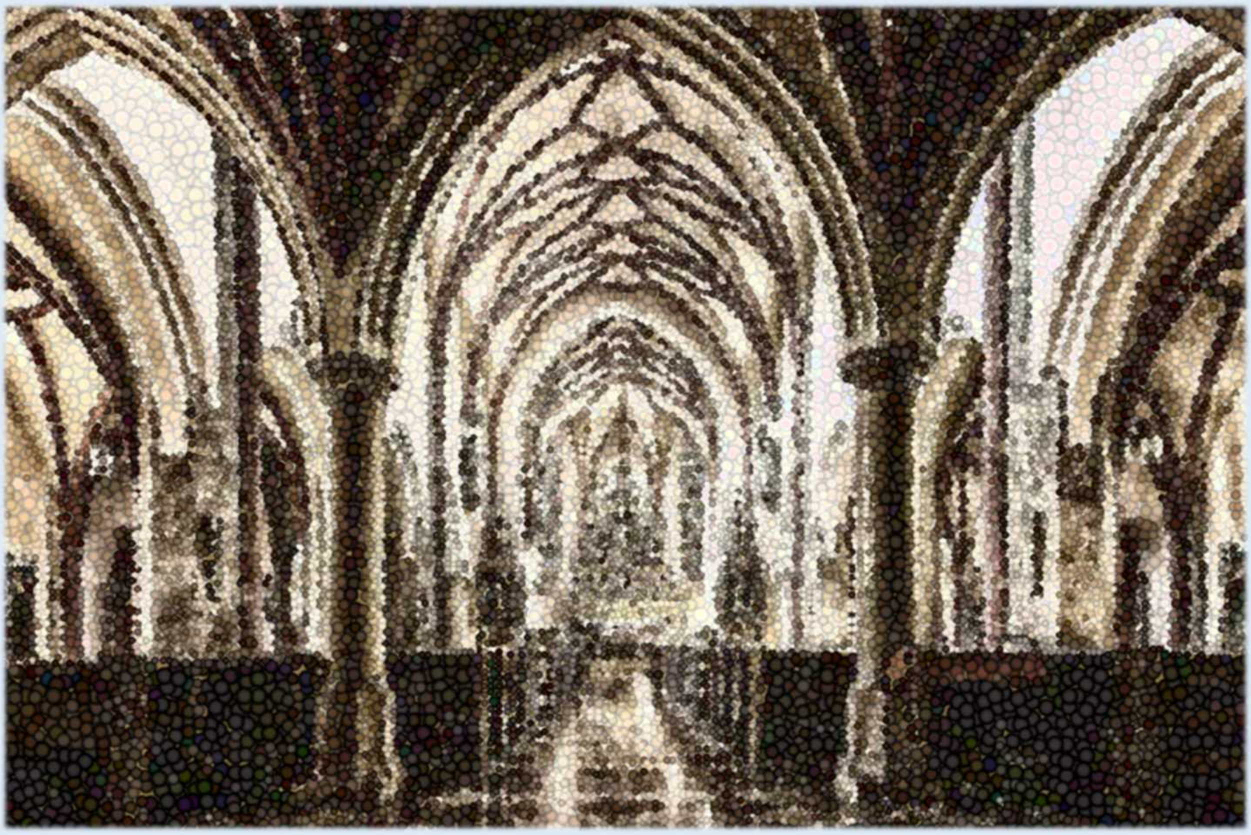
私の選んだこの一冊

# 『本好きの下克上 / 香月美夜著』



小柳　淳二　（こやなぎ　じゅんじ）
工学部　准教授

このシリーズは司書として働くことになった主人公本須 麗乃（22 歳）が大好きな本に埋もれて死亡するところから始まる、といえば異世界転生物語と思う人は多いかと思う。いわゆるライトノベルで大学生には少々軽い読み物かと思うが、転生して貧乏で病弱な子供マイン（5 歳）の体に生まれ変わった主人公の奮闘努力には感心するばかりである。まず、生まれ変わった世界は中世ヨーロッパ風の世界設定で主人公が大好きな本は手書きのものしかなく、紙も羊皮紙の設定であり、本は非常に高価で簡単に手に入るようなものではない。そのため主人公は自分で本を作ろうとするのである。その過程を読むと、我々が簡単に手に入れられる本のありがたさが身にしみて感じられる。



紙、インク、活版印刷機、すべての開発を手掛けて主人公は本の制作に成功するのである。主人公は、それらのものがどのようなものかをある程度知っていても開発には大変な苦労と失敗が繰り返されている。これを読むと実際に開発した方はもっと工夫や苦労があっただろうと考えさせられる。もちろん開発には、周囲の人の協力と資金が不可欠である。主人公が生まれ変わった先の家族では突然変わった行動をとる自分の子供（主人公は幼くして亡くなった少女の体を乗っ取る形で生まれ変わる）に戸惑いながらも愛情をそそぎ、主人公の突拍子もない頼みを次々と協力して実現していく家族や幼馴染の様子が描かれ、家族愛や地域社会の愛を感じる物語となっている。資金面では主人公の最大の武器となるのは、転生前の世界（現世）での様々な日用品や料理の知識である。中世のような世界で、現代の世界のちょっとした日用品や料理の知識がいかに革命的であるかが感じられる。さらにファンタジー小説として、魔法もあり、魔法が使える貴族とそうでない庶民の差もしっかりと表現されている。基本的に「いい人」が主人公の周りにいるが、そのような「いい人」でも貴族であれば、庶民をまるで動物であるかのように生殺与奪の権利を持っており、それを行使することにためらいがない様子であり、貴族や庶民の中でも階級が存在し、貴族では階級が違えば結婚もままならない（一応理由がある）といった残酷な階級社会の様子が描かれている。あまり書くとネタバレになってしまうが、主人公も貧乏な家の子供から「下克上」で貴族の仲間入りを果たし、そこで本を作るという情熱が巻き起こす様々な騒動は面白く読め、少し戦闘シーンなども交えたとても面白い作品である。このシリーズは「本好き」となっているが、実は「小説家になろう」（https://syosetu.com/）というインターネットサイトで全文を読むことができる。普段本を読まない人も少しインターネット上で読んでみてはどうだろうか。おもしろければ、本も出版されていて、書下ろし部分もあるので「本好き」であるならぜひ本を買って読んでいただきたい。ただし現時点では全部の書籍化はされていない。またアニメにも少しなっていて、様々な面から楽しめる作品である。サイト上では完結しているが、できれば続きを書いて欲しい作品である。

『本好きの下克上』
香月美夜著
TOブックス, 2015-

中央図書館 開架
913.6:Kaz:(01) 他

私の選んだこの一冊

# 『ソルハ / 帚木蓬生著』

井上　柚希（いのうえ　ゆずき）
農学部

COVID-19 により、気付いたら1年間が経とうとしています。留学も以前のようにはできなくなり、学校生活や就職活動も先の見えない状況が続いています。このような状況が続く中、本推薦図書の機会をいただいたため、紹介させていただきます。

「日本人は外国人より幸せを感じない。」そんなこと聞いたことありませんか？そもそも幸せとは何なのでしょうか。健康でいることなのか、勉強することなのか、友達がいることなのか…。本書は幸せとは考える機会を与えてくれるような一冊です。

本書では、アフガニスタンを舞台に少女ビビの成長を描いた物語です。政権が崩壊し、タリバンの監視下に置かれた生活で、生活が一転していく様子や一家がばらばらになっていく過程での成長の様子や心境が生々しいほどに表現されています。児童向けの本ではありますが、学ぶということがいかに価値のある経験であるのかを教えてくれるはずです。

今の日本は経済的にも、学習環境においても決して恵まれていないことはありません。農業・工業・文化・教育どの分野の発達においても平和であることによって発展します。好きなだけ学習できることを「幸せ」と感じてみませんか？

『ソルハ 』
帚木蓬生著
あかね書房, 2010.4

中央図書館 開架
913.6:Hah

私の選んだこの一冊

# 『エバーグリーン / 豊島ミホ著』

鎌田　壮譜（かまだ　たけつぐ）
農学部

ふと自分の過去を振り返ってみたとき、そこにはキラキラと輝くものがあるのが分かる。小説や歌ではしばしば宝石やビー玉などに例えられるそれは、本書でも大きな存在感をもつものとなっている。

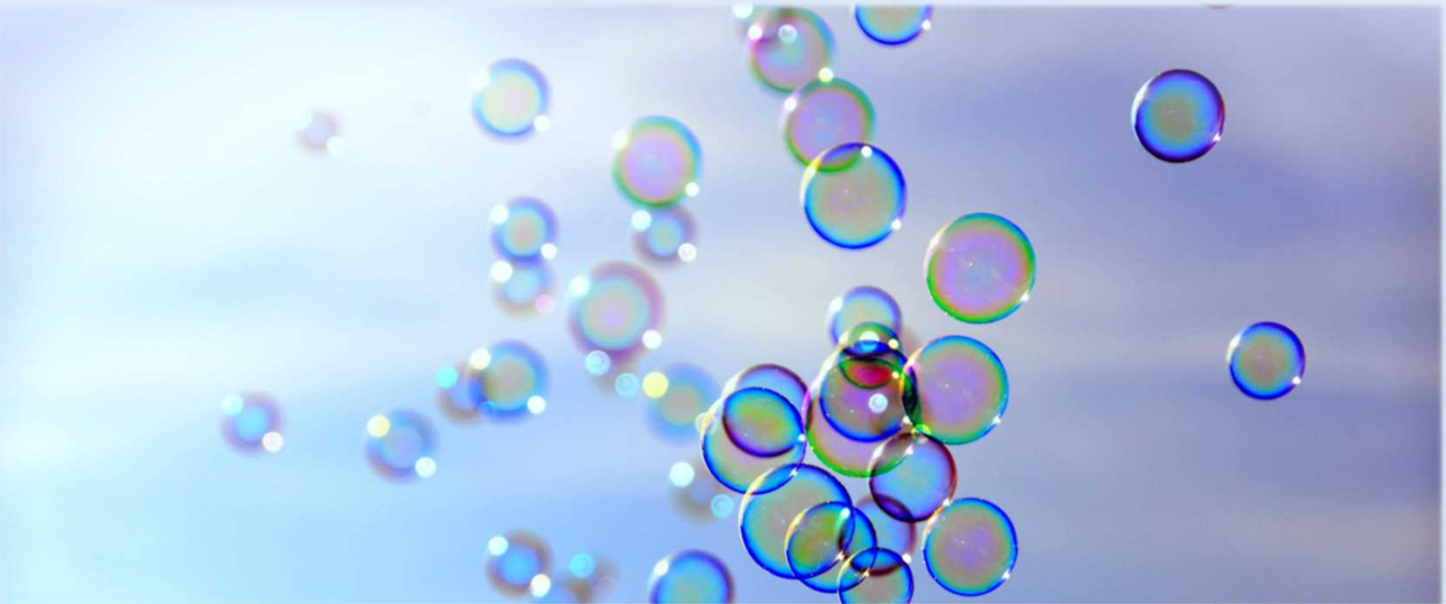
さて、本を推薦するからには何か感想を書こうと思ったが、結局は書かないでおこうと決めた。読書というものは読み手の経験によって感じ方が異なるが、本書では特にそれが大きいのではないだろうかと感じたからである。

それは、キラキラしたもの自体の違いもあるが、その扱い方というのも人それぞれだろうと思うからだ。例えば、思い出としてどこかにしまっている人もいるだろうし、今に至るまでずっとそれ又はそれらと歩んできた人もいるだろう。そのため、これから本書を読む人たちに変な印象を付けないためにも、個人的な所感をここに書くということはしない。もちろん、本書の登場人物たちがこのキラキラとどう関わっていくのか、これも実際に読んでからのお楽しみである。

今、この文章を読んでくれているあなたにとっての宝石やビー玉はどのようなものだろうか。引き出しなどにしまっている人はそこから取り出して、ずっと握りしめている人は一度その手を開いてみてほしい。そうしてから、本書を読んでみてほしい。その経験があなたの新しい宝石やビー玉となったなら、私にとっても嬉しい限りである。

『エバーグリーン 』
豊島ミホ著
双葉社, 2009.3

中央図書館
新書・文庫コーナー
文庫:FTB:と16-01



# 新しい図書館システムについて

- はじめに

図書館システムは資料の受入から目録作成、さらに資料の貸出や外部とのやり取りなど、多岐にわたる図書館業務を行い、また利用者のみなさまに資料に関する情報提供を行うためのシステムです。2020年9月に新しい図書館システムが導入されました。ここでは利用者のみなさまが目にする部分を中心に簡単にご紹介いたします。

- OPAC（オーパック［蔵書検索］）

（https://www.opac.lib.tottori-u.ac.jp/opc/）

OPACは鳥取大学の図書館等にある資料を探すデータベースです。Web上に公開されており、基本的にはインターネットに接続していればどこからでも利用することができます。

以前のシステムと比べて機能的にはそこまで大きな違いはないのですが、URLがhttps化されたことでセキュリティ（以前は後述するMy Library内のみ）の面で強化されました。また、検索語を外部データベースへ引き継いで検索する機能やスマートフォン対応機能は引き続き搭載しています。

- My Library（マイライブラリー）

（https://www.opac.lib.tottori-u.ac.jp/portal/portal/selectLogin/?lang=ja）

個人ごとにいろいろな図書館サービスをうけることができるのがMy Libraryです。IC学生証およびIC職員証をお持ちの方は鳥大IDで認証してログインして利用できます。

新しいシステムでは、文献複写依頼画面で申込内容の項目を増やしたり選択肢を変えたりして、よりスムーズに資料の手配ができるように変更しています。

また、貸出状況確認など一部の画面では引き続きスマートフォン表示に対応しており、今後も可能な機能は順次対応する予定です。

- おわりに

コロナウイルス感染症に振り回された2020年度でしたが、紆余曲折あれども新しい図書館システムが無事に稼働開始できたので、ほっとしています。ただいわゆる「ニューノーマル」「アフターコロナ」時代に対応するためにも、引き続き改善に努めていきたいと思います。

金子　尚登（かねこ　なおと）
研究推進部図書館情報課

# トピックス

## 乾燥地研究センター設立７０周年記念パネル展

1990年6月8日に乾燥地研究センターは全国共同利用施設として設立されました。設立30周年を記念し、2021年1月12日（火）～2月1日（月）の間中央図書館でパネル展を開催いたしました。

乾燥地研究センターの沿革、研究活動など「 鳥取砂丘から世界の乾燥地研究へ」をテーマに様々なパネルを展示いただきました。また、パネルだけではなく世界各国の砂、乾燥・高温に強いコムギの標本なども展示され、来館をした学生等もたびたび見学をしていました。

## トピックス

# 附属図書館の新型コロナウイルス感染症対応について

| | |
|---|---|
| 9月 | 図書館職員の在宅勤務を試行<br>入館ゲートにサーモグラフィーカメラを設置（29日） |
| 10月 | 夜間開館等を20時まで再開（1日）<br>医学図書館で土曜日休日開館を再開（〃）<br>学生選書会をオンラインで実施（おうちでお気楽プチ選書） |
| 11月 | 中央図書館カウンターにサーモグラフィーカメラ用パソコンを設置（4日） |
| 12月 | 中央図書館の閲覧室、ラーニングコモンズ、PCルーム等の利用を座席数、会話、飲食禁止等の制限付きで再開（1日）<br>医学図書館の臨時休館および夜間開館の変更（2日） |
| 2月 | 中央図書館の閲覧室座席利用停止、開館時間等の変更（2日）<br>中央図書館の閲覧室座席利用を再開（22日） |

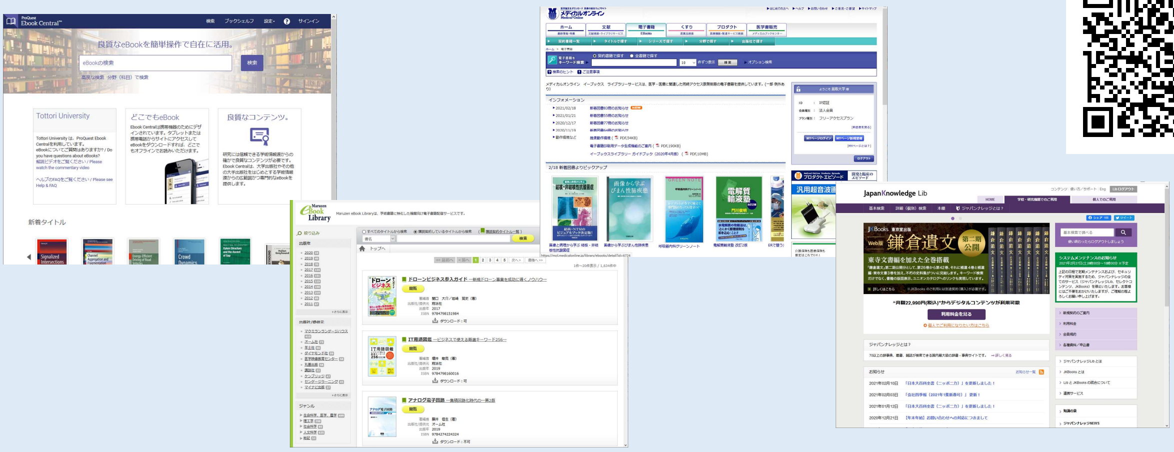
# E-Book（電子書籍）サービスのご紹介

2021年7月より、ProQuest eBook Central（電子書籍）Mediated DDA 試読サービスを開始いたしました。ProQuest社が提供する 洋書Ebook(電子書籍)のプラットフォームから、収録されている約110万タイトルを最大5分間自由に閲覧し、附属図書館に図書購入リクエストすることができます。

その他にも和書では2020年11月から2021年1月末までの約3カ月間、丸善雄松堂の提供する約7万3千タイトルの Maruzen eBook Library電子書籍配信サービスの試読トライアルを実施し、利用回数の多い電子書籍等を新たに契約いたします。その他、ジャパン･ナレッジ Lib、メディカルオンライン、化学書資料館などさまざまな出版社等との提供する電子書籍をご利用いただけます。レポート、試験勉強だけでなくサークル、さまざまな学修活動など、この機会にぜひご活用ください。

詳細はこちらからご覧ください。

（http://www.lib.tottori-u.ac.jp/file1-1.html）



LIBRARY　鳥取大学附属図書館報　Vol.135　2021年3月発行

編集・発行
鳥取大学附属図書館
〒680-8554　鳥取市湖山町南4丁目101番地
http://www.lib.tottori-u.ac.jp/index.html
https://www.facebook.com/TottoriUnivLib/
https://twitter.com/TottoriU_Lib